

## 実践例 総合的な学習の時間（5年） 11月実施

単元名 「お米 再発見!」（75時間予定の44時間目）

### <授業の視点>

同じ小課題で追究している児童同士で意見交流をする場面で、質問をしたり、友達の考えと比較をしたりしながら進めていったことは、小課題についての自分の考えを広げたり深めたりする上で効果的であったか。

### 【つかむ】・・・課題把握

#### <本時の学習課題>

班の友達と意見交流をして、小課題についての自分の考えを見直そう。

#### 手立て1

児童の意識の流れをふまえて、めあての提示をした。



あまり自信がないな。

先週、自分の考えをもちましたが、自信がある人？



話し合いでもっと自分の考えを深めていきたいな。

まだ自信のない人がいるから、全体交流では自信をもって伝えるようにしたいね。そこで、今日は班で、意見交流を行い自分の考えを見直して、自信をもったり、深めたりしましょう。



### 【追究する】

同じ小課題について調べている班で、考えを交流し合いましょう。

#### 手立て2

意見交流の進め方や留意点について、掲示用の「進め方カード」を使って確認をし、各班でこのカードを活用して、意見交流がスムーズに進めていけるようにした。

意見交流の進め方

- ①自分の考えを発表する。
- ②聞いている人は、質問をする。
- ③意見の交流をする。④大事なことをメモする。



### 手立て3

考え方の視点を設定して、安全な米作りや米の大切さ・地域の人々の知恵と努力に気付いていけるようにしたり、意見を出しやすくしたりした。

#### 小課題「安全な米作りの環境」の班

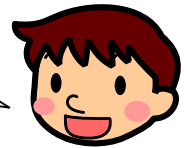


考え方の視点例：農薬や化学肥料を使うことに賛成か反対か。



無農薬でお米を作るのは、人にも環境にもやさしいからたくさんの人に行ってもらいたいです。

無農薬は、除草などすごく大変なので、2・3回は農薬を使ってもいいと思います。



#### 小課題「米作りの昔と今」の班



考え方の視点例：昔から今を調べて、米を作る仕事についてどう考えるか。

わたしは、昔から今へと進歩してより効率がよく、楽に作業ができると考えていたけど、それは昔の人の知恵や技術が今へと伝わったからだと考えました。



### 手立て4

班ごとの話し合いの様子を見取り、教師の参加・新たな視点の提示・写真の活用などで考えを広げたり、深めたりした。

#### 小課題「収穫後の稲の利用と米やご飯になるまで」の班

教師の参加：話し合いが停滞していたので、教師と一緒に参加して、支援。

なぜ、わたしたちの周りでわらやもみがらが利用されなくなったのかな？



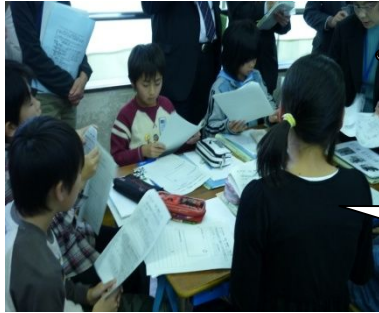
わらに替わるものが身の回りにないかな？



ビニールのひもやたこ糸のような丈夫なものに替わってきているから、身の回りであまり利用されなくなってきたと思います。

### 小課題「米作りの工夫・苦勞」の班

#### 新たな視点の提示 1



なぜ、地域の人に農家の人の苦勞を知らせたいのか考えてみよう。

地域の人が、農家の人が工夫や苦勞をして米作りをしている事を知ってご飯を食べると、おいしいし、ご飯を残さないように大切に食べるからです。

### 小課題「米の種類と適した自然条件」の班

#### 新たな視点の提示 2



全体交流で伝えたいことを班で話し合ってまとめよう。

分かったことは、「ミネラルを含むわき水を使うと、おいしいお米ができる」だね。それから、「お米のよさをアピールしてお米作りをする人を増やしていける活動が必要。」という考えは大切だね。



**写真の活用：**除草の体験の写真を提示して、その時の思いを想起させ、対立意見が出せるようにした。



学習シートのメモを読み返し、取り入れたい考えをはっきりさせながら、もう一度自分の考えを書きましょう。

お米を作る量が最近減ってきたから、わらやもみがら、ぬかで作ってある物は大切にしたい方がよいと思うな。



同じ考えの人がいて自信を持ったな。

## 【まとめる】

意見交流をして、見直した考えを発表しましょう。



### 手立て5

考えが深まった児童を意図的に指名して発表させ、しっかりと見直せたことを賞賛することで本時の学習の成果を自覚できるようにした。



わたしは、無農薬でお米をたくさんの人に作ってほしいと考えていました。でも、完全に農薬を使わないでお米を作るのはとても大変なので、少しぐらいは農薬を使ってもいいと考えが変わりました。

お米を干すときは、やっぱりおいしくできる天日干しの方法でやりたいと考えました。

### 授業を終えて

## 《成果と課題》

### ①成果

- 前時の児童の考えをよく見取っておいたことにより、意見交流が苦手な児童へ支援したり、話し合いが滞っている班に新たな視点を提示して意見を引き出したりするなど本時の個やグループへの支援に生かすことができた。
- 意見交流の視点を明確にしたことにより、話し合いが活性化され、考えが深まった。
- ねらいにつながる体験活動を設定したことにより、それを根拠として児童が自信を持って自分の考えを発表することができた。
- 小課題別で意見交流をし、質問をしたり友達考えと比較させたりしたことにより、意見が出しやすくなり、話し合いを深めようとする姿が見られた。
- プレ授業、模擬授業を事前に行ったことにより、授業の改善点が明確になった。

### ②課題

- ワークシートについては、質問に答えられなかったことや意見交流の中で、分からなかったことを記入する欄など、さらに工夫が必要である。
- ねらいや目的、発達段階に応じたメモの取り方を指導していく必要がある。
- 意見交流で質問に答えられなかった時、みんなで考えていくなど、班内で協力し合う態勢をつくっていく。
- 抽出児童を決めて観察することで、考えの深まりを把握する。

